

長期計画部会概要報告

委 員	部会長：光田 靖 部会委員：黒田 真峰、児玉 寛太郎、佐藤 貢、外山 正志、 長友 幹雄、藤掛 一郎、前田 正一
審議事項	第八次宮崎県森林・林業長期計画の改定について
審議の経過	1 諮問（令和6年12月16日） 2 第1回部会（令和7年6月3日） (審議事項) 第八次宮崎県森林・林業長期計画（改定計画）の骨子（案） 3 第2回部会（令和7年8月25日） (審議事項) 第八次宮崎県森林・林業長期計画（改定計画）の素案 4 第3回部会（令和7年11月12日） (審議事項) 第八次宮崎県森林・林業長期計画（改定計画）の原案
審議での 主な意見	1 森林・林業・木材産業を取り巻く諸情勢について 2 目指す姿と基本目標について 3 適切な森林管理について 4 林地の集積や施業の集約化について 5 県産材の需要拡大と木材産業の競争力強化について 6 担い手の確保・育成について ※詳細は裏面のとおり
部会最終意見	第八次宮崎県森林・林業長期計画（改定計画）（案）については、 部会での意見等を踏まえた内容となっており、「妥当」と認める。

長期計画部会での委員からの主な意見

1 森林・林業・木材産業を取り巻く諸情勢について

- ・生物多様性の記載を盛り込む必要がある。
- ・J-クレジットの記載を盛り込む必要がある。
- ・森林所有者の意向や視点を盛り込む必要がある。
- ・人口減少社会の中で、労力のかかる造林や下刈りを今そのまま続けていけるのか考える必要がある。

2 目指す姿と基本目標について

- ・将来の木材需要を加味しながら、本県の将来の産業の姿を描けるとよい。
- ・産業の将来を示す1つの項目として、将来の資源の状況を示してはどうか。

3 適切な森林管理について

- ・施策の展開に、生物多様性の具体的施策を盛り込んではどうか。
- ・林業経営、資源の循環利用を進める生産林でも、生物多様性を意識した幅のある記載をした方がよい。
- ・激甚化する災害に路網の開設が一因としてあるなら対策が必要である。
- ・自分の持っている山でいかに利益を出すかを考えるのが本来の林業経営であり、多面的機能を維持するため、山の作り方も多様であるべきである。

4 林地の集積や施業の集約化について

- ・人口減少の中で、将来、誰が山を所有し管理していくのかが問題となってくる。
- ・世代交代等により境界や所有が不明確化している森林について、登記情報をどう整理していくのかが課題である。
- ・集積をしていく森林所有者を育てるような記載がないため、整理すべき点だと思う。

5 県産材の需要拡大と木材産業の競争力強化について

- ・需要に応じるために製材工場間での連携体制の構築が必要である。
- ・新建材を国産材へ置き換える製品等の開発が必要である。

6 担い手の確保・育成について

- ・新規就業者が辞めないよう指導者や経営者に対する研修が必要である。
- ・例えば通信環境の課題があり、女性や若い人に対する働きやすさの対策が必要である。